

# 普及指導員の行動に関する調査研究

平成 21 年 11 月

京都大学

こころの未来研究センター

(協力: 近畿農政局、近畿ブロック普及活動研究会)

## 目次

1. 調査方法 .....	2
2. 回答者の構成 .....	3
3. 尊敬される普及指導員の姿 .....	4
4. 尊敬する普及指導員・回答者本人の経験した事例で地域が抱えていた問題 .....	5
5. 尊敬する普及指導員・回答者本人の経験した事例で実施された支援 .....	6
6. 地域の抱える問題のタイプと各支援の有効性 .....	7
7. 普及指導員が「助けられた」と感じた相手 .....	10
8. 普及活動による状況の改善度 .....	11
9. 普及指導員が地域の人から必要とされた程度 .....	12
10. 尊敬する普及指導員が及ぼす影響 .....	13

## 1. 調査方法

- ① 調査時期: 2009年7月上旬～8月上旬
- ② 調査方法: SurveyMonkey社のサービスを利用してインターネット上に質問票を設置し、質問票サイトのURLを近畿6府県の普及指導員に告知した。また、質問票サイトにアクセスして回答できない場合のために、同じ内容の質問票をExcelで作成し、そのExcelファイルを普及指導員にEメール等で配布した。
- ③ 調査内容: 自分の尊敬する普及指導員の持つ特徴や、その普及指導員の経験した事例で地域の抱えていた問題とそこで実施された支援について尋ねた。さらに、回答者本人が経験した事例について、その中でも特に「難しい課題に直面した時」のことを思い出すように求め、その時に地域の抱えていた問題や回答者の実施した支援について尋ねた。また、普及活動を通じてどれくらいその状況が改善したか、どれくらい地域の人から普及指導員が必要とされたか等について尋ねた。
- ④ 調査対象: 近畿6府県の普及指導員616名
- ⑤ 有効回答数: 319名(有効回収率51.8%)

## 2. 回答者の構成

図 1. 性別

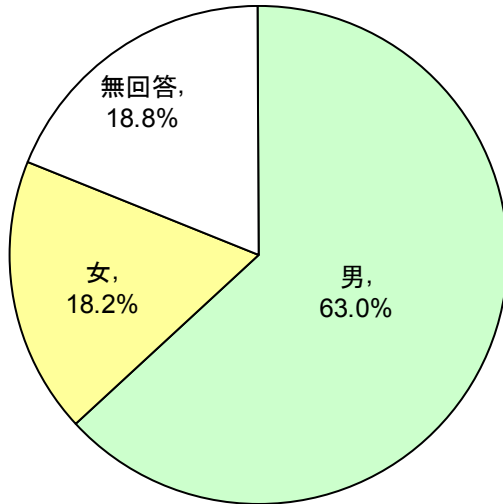


図 2. 年代

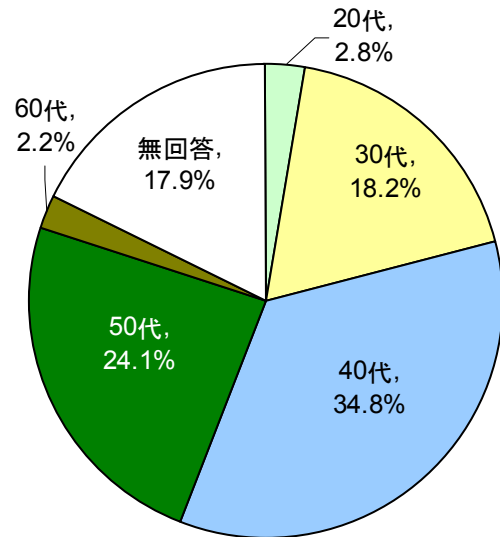
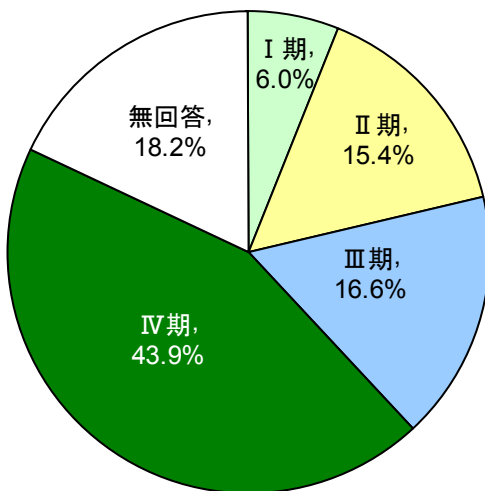


図 3. 普及指導員としてのキャリア(経験年数)



註: I期 = 経験年数3年まで, II期 = 4~10年, III期 = 10~15年, IV期 = 15年以上(平成3年4月11日付農蚕園芸局長通達「協同農業普及事業基本要綱の運用について」の分類に基づく)

### 3. 尊敬される普及指導員の姿

自分の尊敬する普及指導員について、表1の各項目が当てはまるかどうかを尋ねた。0点 = 当てはまらない、1点 = 当てはまる、2点 = とてもよく当てはまる、として各項目の平均得点を算出した。

**表1. 尊敬される普及指導員の特徴: 個別項目の得点**

説得力のある言葉や行動を通じて相手を納得させる	1.49
知識や技術を実際に活かす	1.44
農業者の視点に立ち、相手の心を理解しようとする	1.33
多くの知識・技術を持っている	1.31
熱意・情熱をもって人に接している	1.29
知識や技術を伝えるのがうまい	1.28
新しい人間関係やネットワークを積極的に構築する	1.27
人を育てる力がある	1.20
農家や関係者に働きかけて成長を促そうとする	1.20
人を引っ張り統率し、方向転換させる指導力がある	1.19
決断力がある	1.19
農業者に自分が何を提供できるのかを考える	1.18
自ら進んで物事に取り組む	1.18
農家や関係者のニーズに応じて支援したいという願望が強い	1.18
地域の中にいろいろな人脈を持っている	1.12
物事を局部ではなく大所高所からとらえる	1.11
強い信念を持ち、困難なことがあってもあきらめない	1.11
時代の流れを読み、将来に向けてのビジョンを提言する	1.10
信頼・尊敬の念で周囲から見られる	1.10
先例がないことにも進んで取り組む	1.09
状況を的確に判断し、臨機応変に行動を変える	1.06
地域の関係機関と連携し、それぞれの役割分担を行う	1.06
構築された人間関係をメンテナンスし、長期にわたり保持する	1.05
周囲と連携してチームワークを形成する	1.05
問題解決又は目標達成のために必要な取組を順序立てて企画する	1.05
地域のリーダーを見つけ、育てる	1.04
とらえどころのない現象の中から大事な問題が何かを見つけ出す	1.02
普及センター内や他の普及指導員と連携し、普及組織内で自分の役割を全うできる	1.01
自分の能力を信じている、自信がある	1.00
地域全体の中での自分の役割を理解し、全うしようとする	.98
地域全体が目指す目標や、要求する行動基準をよく理解する	.95
助言や情報提供してくれている人を多く抱えている	.91
その人の存在によって周囲が明るくなるカリスマ性	.87
問題の局部を分析し、本質を緻密に解明する	.85
常に話し合いの中心に位置し、話題を提供する	.85
その人の存在によって周囲に最善の行動を促すことができるカリスマ性	.83
研究機関と連携し、問題解決に必要な研究を進めてもらう	.79
冷静に自分をコントロールできる	.78
情にもろい	.65
細部に神経をつかい、完璧にやろうとする	.59
消費者の視点で考える	.52

#### 4. 尊敬する普及指導員・回答者本人の経験した事例で地域が抱えていた問題

図 4-1. 尊敬する普及指導員が経験した事例で地域の抱えていた問題(複数回答可)

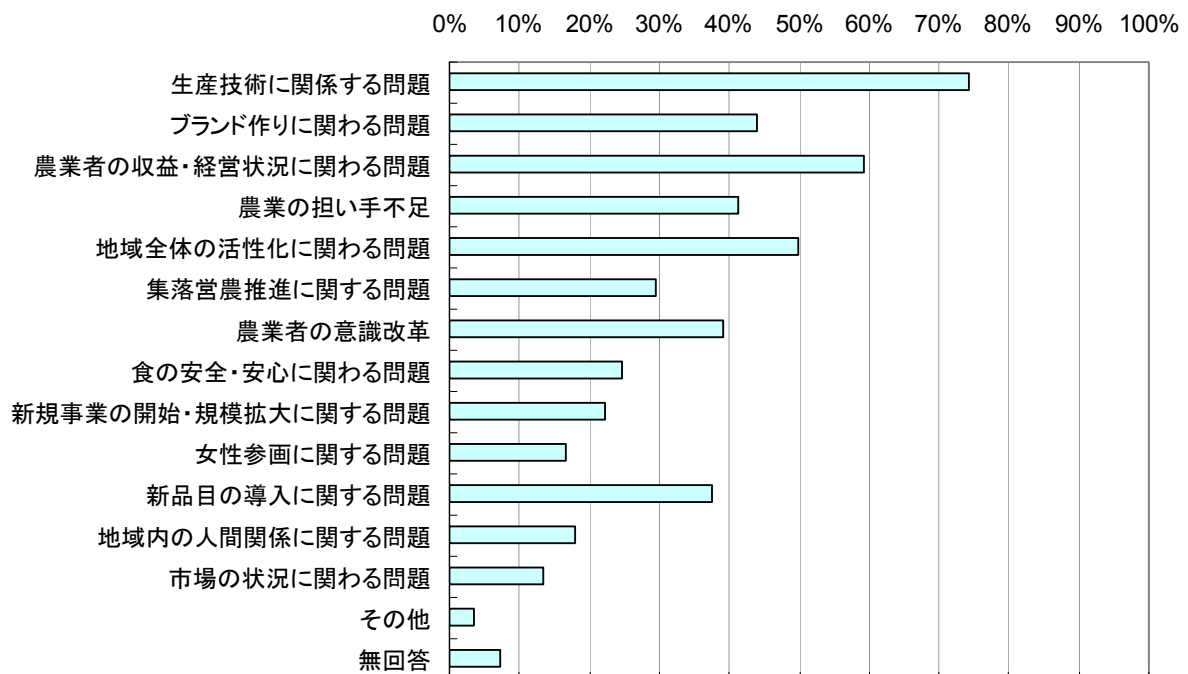
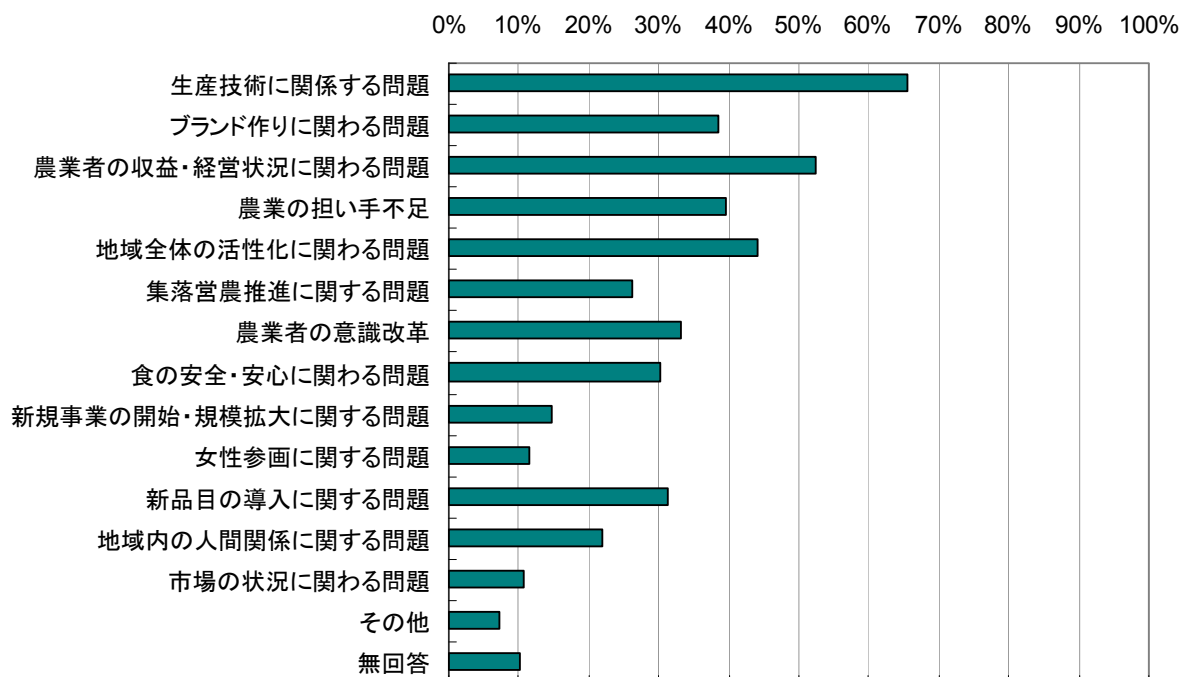


図 4-2. 回答者本人が経験した事例で地域の抱えていた問題(複数回答可)



## 5. 尊敬する普及指導員・回答者本人の経験した事例で実施された支援

図 5-1. 尊敬する普及指導員が経験した事例で実施された支援 (複数回答可) 文末脚注<sup>1</sup>

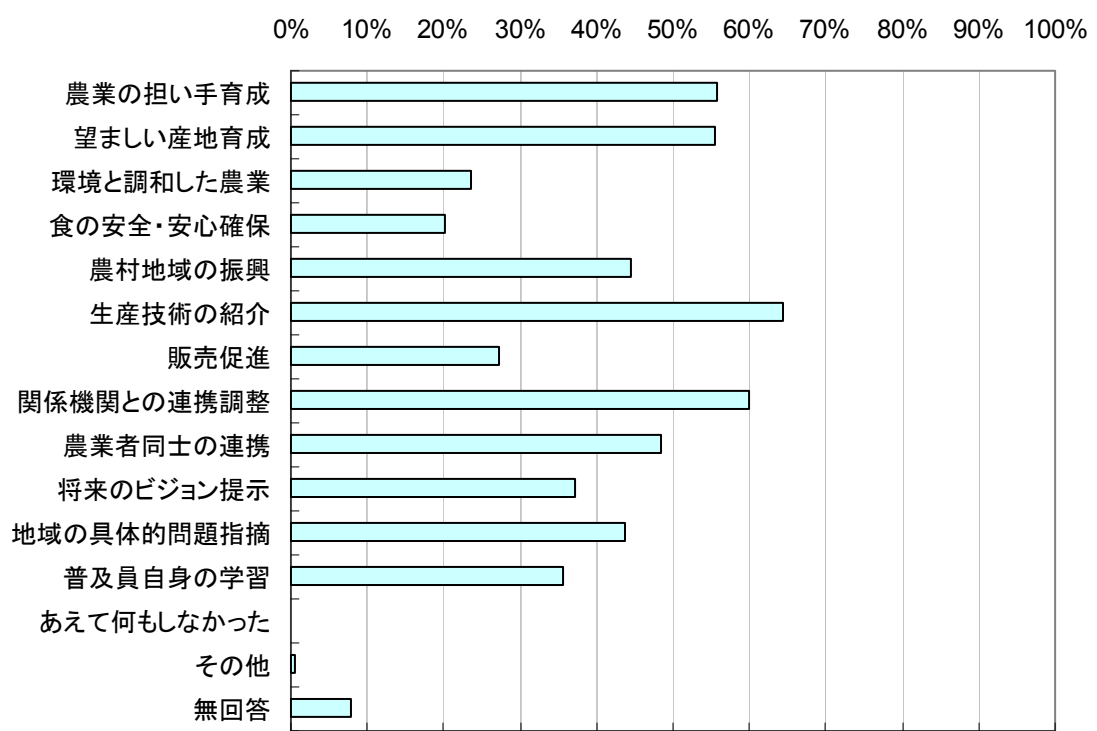
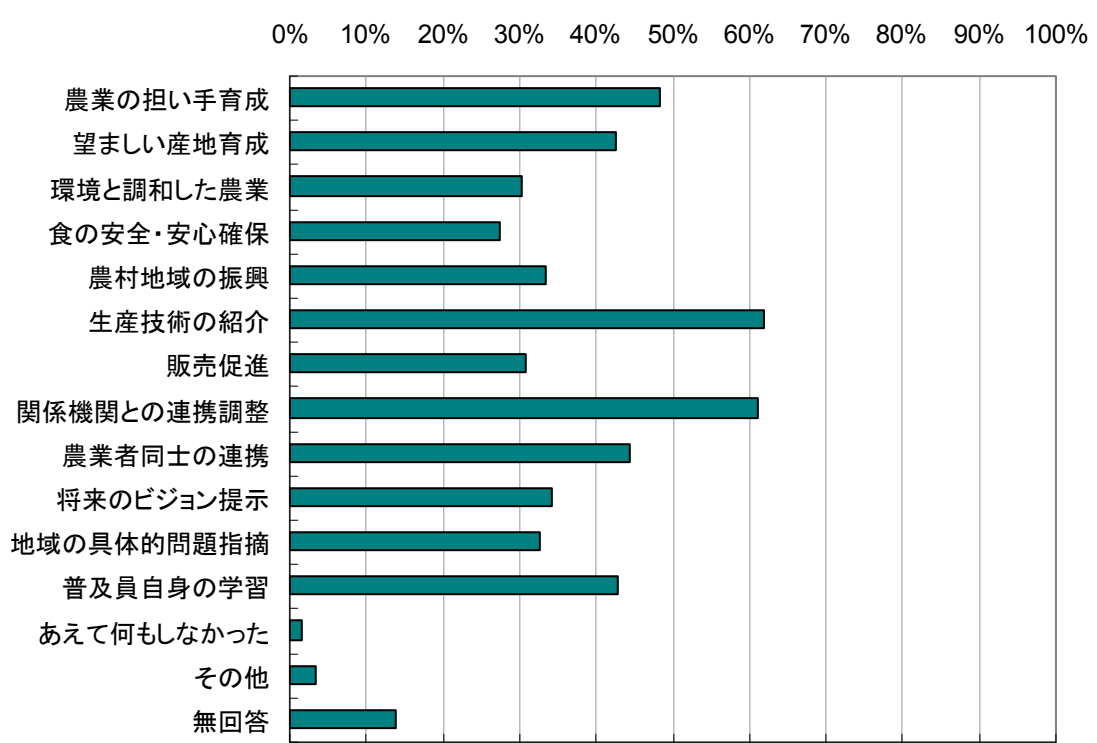


図 5-2. 回答者本人が経験した事例で実施された支援 (複数回答可) 文末脚注<sup>1</sup>



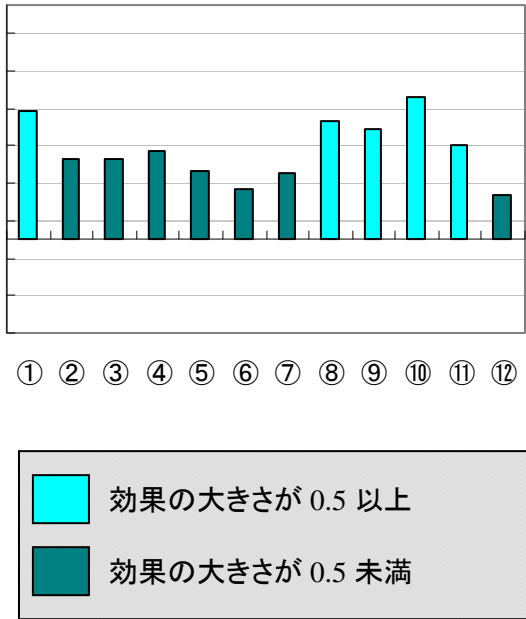
## 6. 地域の抱える問題のタイプと各支援の有効性

図4-2、図5-2で見たとおり、各回答者は自分の直面した事例でどのようなタイプの問題があったかと、その時に実施した支援にどのようなものがあったかを回答していた。これに加えて、「その地域に起こった困難な状況は改善したと感じますか？」という項目(状況改善度: 0点[全く改善しなかった] ~ 3点[かなり改善した])に回答していた。そこで、地域の抱える問題のタイプごとに、どのような支援が有効であるかを明らかにするために、次の分析を行った。まず、各タイプの問題について、その問題が存在する時にある支援を実施したとする回答者と、実施しなかったとする回答者の状況改善度を比較した。そして、この比較を通じて算出される「効果の大きさ」という統計的指標を縦軸に取り、図6-1~図6-10を作成した<sup>1</sup>。各図が各問題タイプの結果を表している<sup>2</sup>。ある図で、ある支援の「効果の大きさ」が高い数値を持つ時、その支援はその問題タイプに対して有効な支援であった(その支援を実施することで、状況が大きく改善した)ことを意味する。なお、図中では、特に効果の大きかった支援のバー(効果の大きさが0.50以上の支援のバー)は色を水色にすることで強調している。

図 6-1. 生産技術に関する問題



図 6-2. ブランド作りに関わる問題



<sup>1</sup> ここで算出している「効果の大きさ」は、Cohen's *d*である。各タイプ問題について、その問題が地域に存在していたと回答したケースを対象に、各支援を実施したかしなかったかを独立変数、状況改善度を従属変数とする *t* 検定を実施し、各独立変数の効果量 *d* を算出した。

<sup>2</sup> 「新規事業の開始・規模拡大に関する問題」「女性参画に関する問題」「市場の状況に関わる問題」「その他」は、その問題が地域に存在したと報告している回答者が 50 名未満であったため、分析結果の信頼性が低いと判断し、報告を省略した。また、支援の方でも、「あえて何もしなかった」および「その他」と回答したケースは少なく(5名と11名)、やはり分析結果の信頼性が低いと判断し、報告を省略した。



図 6-3. 農業者の収益・経営状況に関わる問題

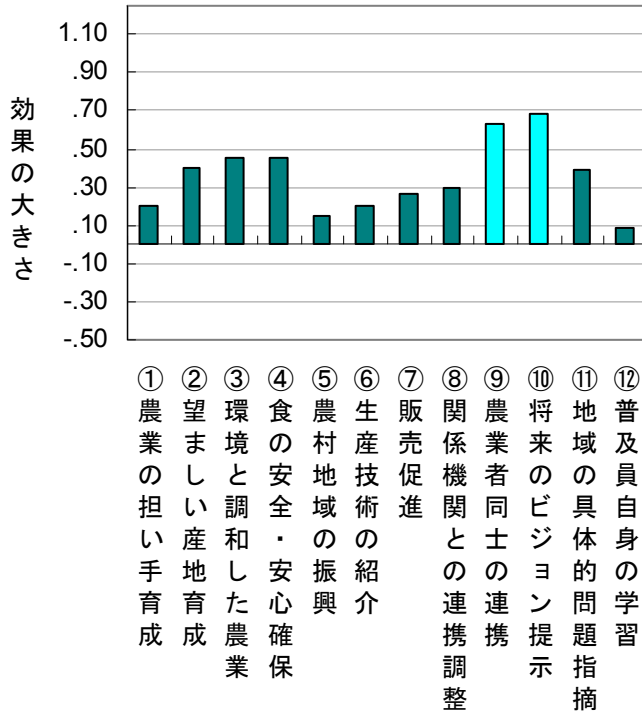


図 6-4. 農業の担い手不足



■ 効果の大きさが 0.5 以上  
■ 効果の大きさが 0.5 未満

図 6-5. 地域全体の活性化に関わる問題

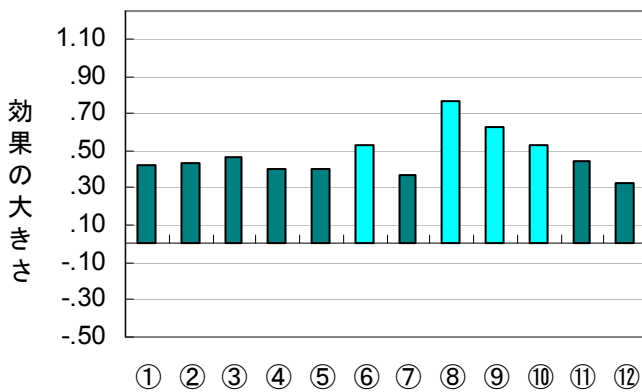


図 6-6. 集落営農推進に関する問題

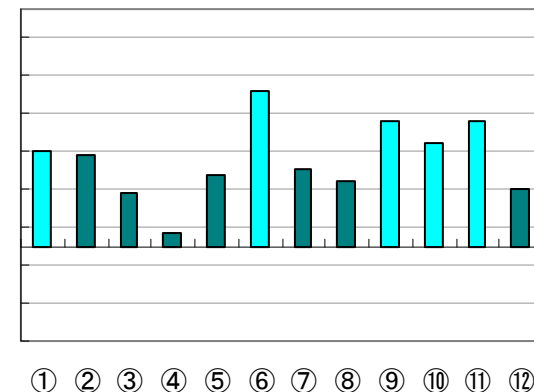


図 6-7. 農業者の意識改革

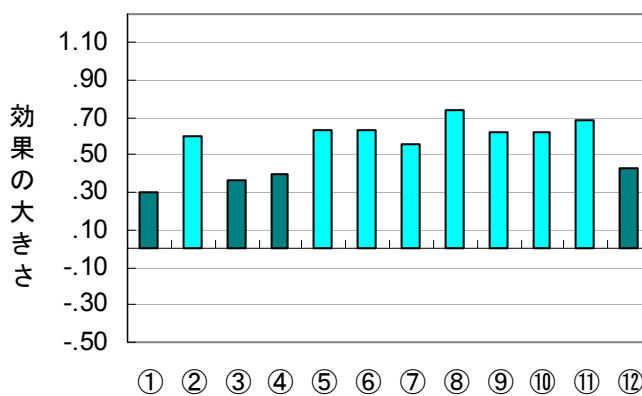


図 6-8. 食の安全・安心に関わる問題

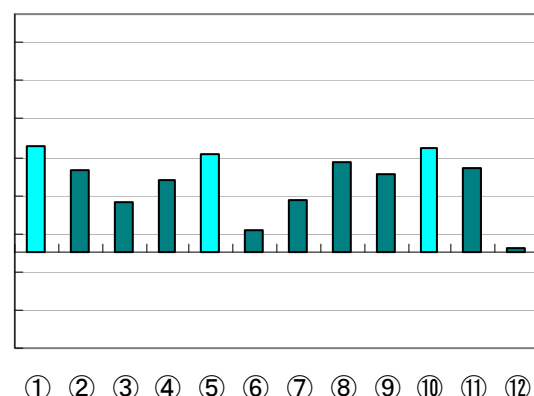


図 6-9. 新品目の導入に関する問題

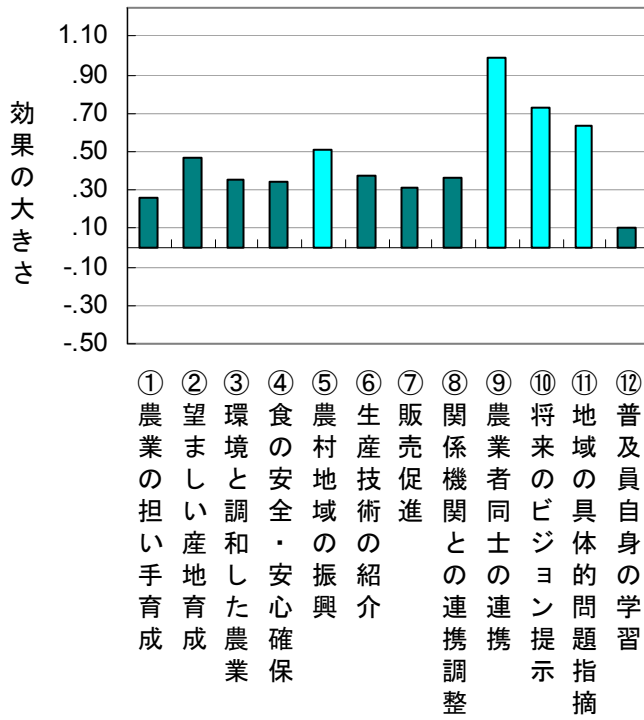
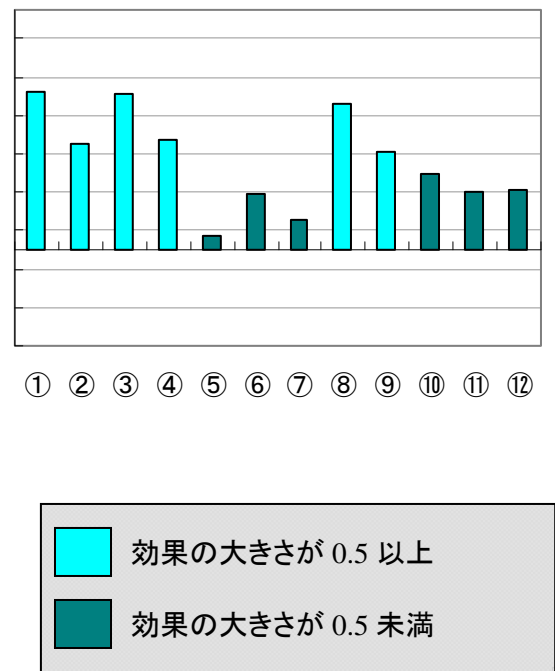


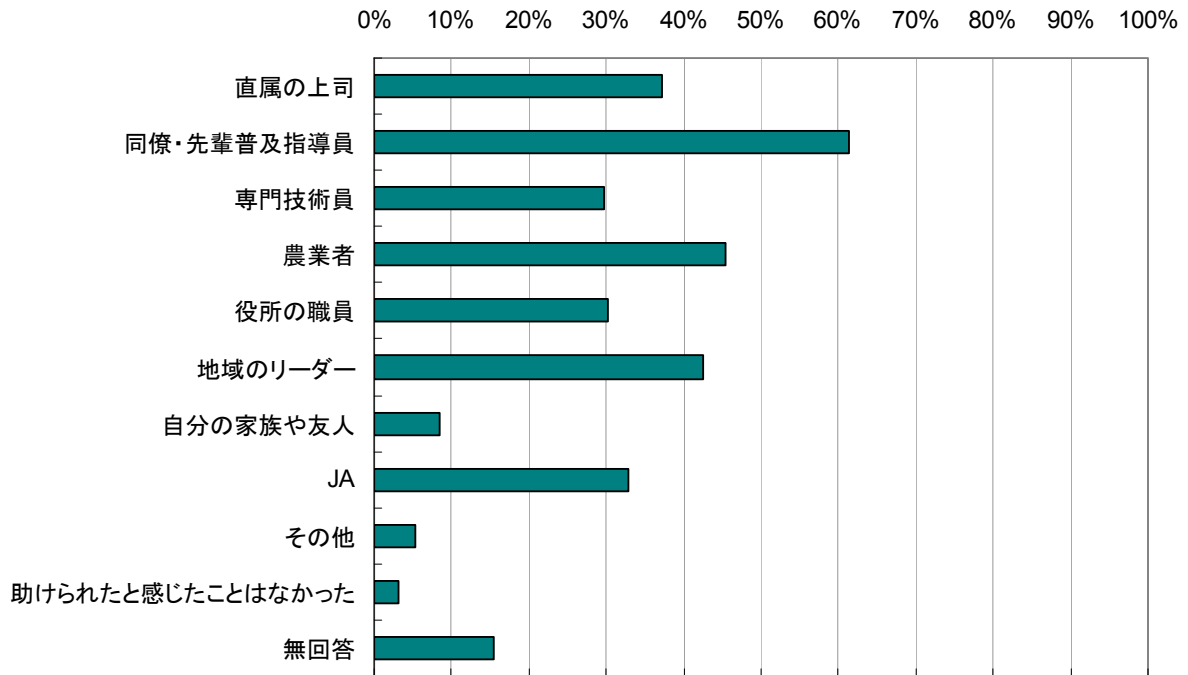
図 6-10. 地域内の人間関係に関する問題



	効果の大きさが 0.5 以上
	効果の大きさが 0.5 未満

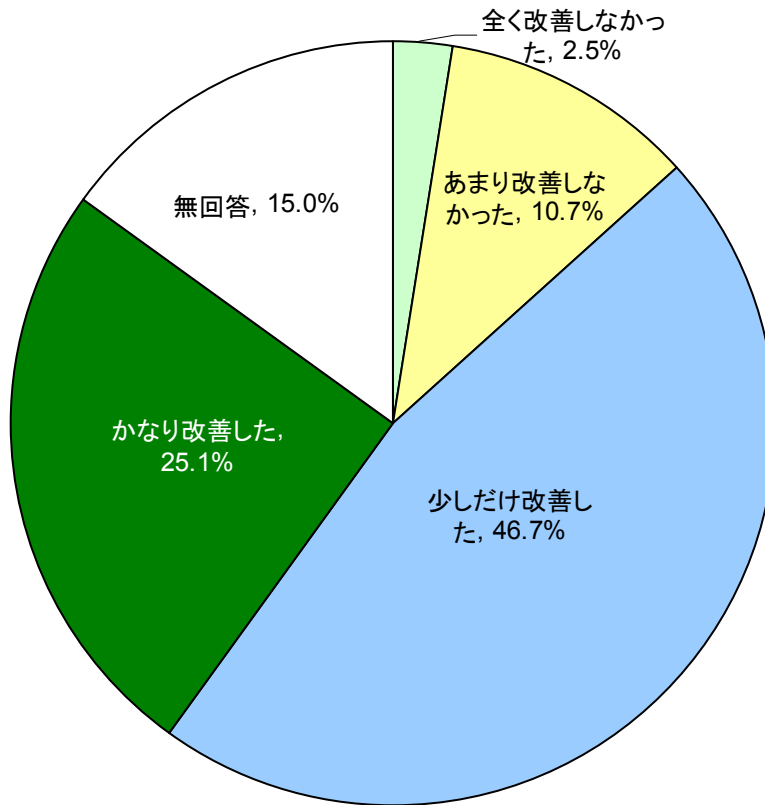
## 7. 普及指導員が「助けられた」と感じた相手

図 7. 回答者本人が経験した事例で「助けられた」と感じた相手（複数回答可）



## 8. 普及活動による状況の改善度

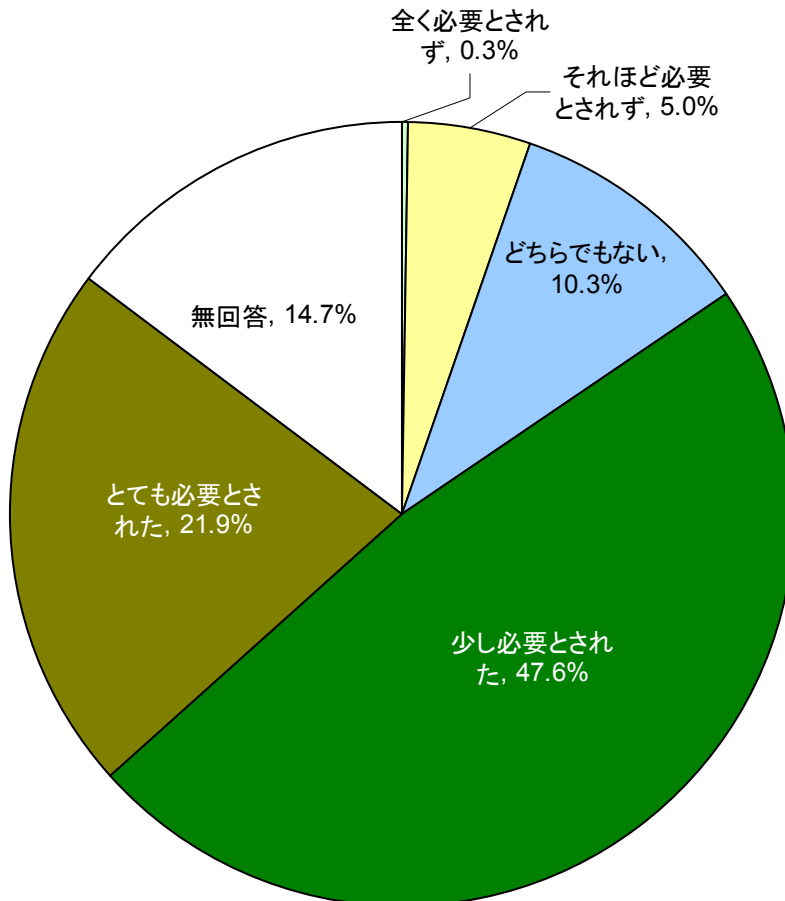
図 8. 状況改善度の分布



註: 回答者本人が経験した事例の中で、特に「難しい課題に直面した」時のことについて思い出そう求めた。その事例において、地域の抱えていた問題が改善したかどうかを尋ねた。

## 9. 普及指導員が地域の人から必要とされた程度

図 9. 地域から必要とされた度合いの分布



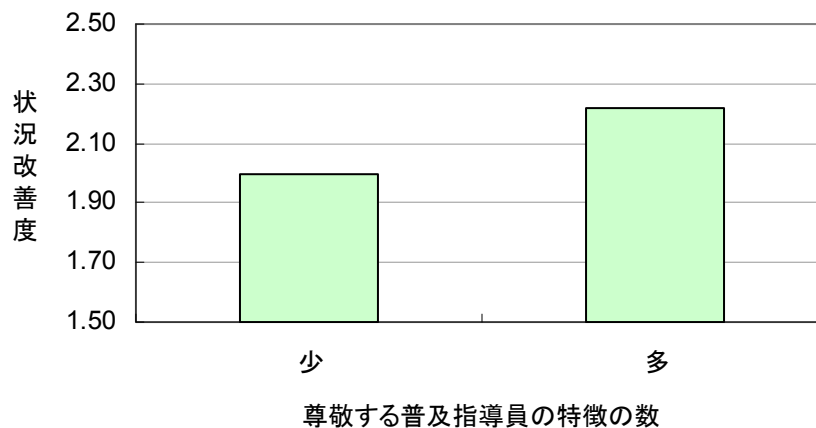
註: 回答者本人が経験した事例の中で、特に「難しい課題に直面した」時のことについて思い出すよう求めた。その事例において、回答者本人が地域の人から必要とされたかどうかを尋ねた。

## 10. 尊敬する普及指導員が及ぼす影響

先輩普及指導員に付き添われての普及指導員としてのスキル形成、すなわち On the Job Training (OJT) は、明文化しにくい知識・技術の伝達を容易にする。また、失敗したときにすぐにフォローを得られるので安心して活動ができ、農業者にも安心感を与えることができる等、OJT は普及活動において重要であると考えられる。

本調査の結果からも「尊敬できる先輩」の存在の重要性が示唆されている。「3. 尊敬される普及指導員の姿」の表 1 で報告したように、本調査の各回答者は、自分の尊敬する普及指導員が 41 項目の特徴のうちいずれを持っているかを回答していた。そこで、この 41 項目のうちいくつかの項目に「当てはまる」あるいは「とてもよく当てはまる」と回答したか(すなわち、自分の尊敬する普及指導員が、どれだけ多くの特徴を持っているか)と、回答者本人の仕事振りの関係を検討した<sup>3</sup>。回答者本人の仕事振りの変数としては、「6. 地域の抱える問題のタイプと各支援の有効性」でも用いた状況改善度(0 点[全く改善しなかった] ~ 3 点[かなり改善した])を用いた。その結果を図 10-1 に示す。図に見られるように、尊敬する普及指導員が比較的多い特徴を持つ群では、比較的少ない特徴しか持たない群より、自分が困難な課題に直面した際の状況改善度が高かった。このことはすなわち、尊敬する普及指導員が多くの特徴を持つほど、回答者本人もよい成果を残していたことを示している。

図 10-1. 尊敬する普及指導員を持つ特徴の数と状況改善度の関係



<sup>3</sup> 「尊敬する普及指導員の特徴の数」で回答者を中央値分割し、「少群」と「多群」に分類した。これを独立変数に、状況改善度を従属変数に T 検定を実施したところ、有意であった ( $t(269) = .250, p = .013$ )。

さらに、尊敬する普及指導員の特徴について、その内容に基づいて41項目を8種のカテゴリに分類した(分類の詳細は16ページの表2参照)。その各カテゴリの得点(0~2点)の高低と、回答者本人の仕事振り(状況改善度)との関係を検討したところ、図10-2~図10-9の結果が得られた。図に示されている通り、「情報・技術」を除いて、全てのカテゴリで低群より高群で状況改善度が高いという結果が得られた<sup>4</sup>。このことは、例えば、自分の尊敬する普及指導員が「人を育成・統制する力」という特徴を持っている時には、その特徴を持っていない時に比べて、回答者本人の仕事振りも向上することを意味している。こうした結果が、「情報・技術」という特徴では見られず、「人を育成・統制する力」など他のカテゴリで見られたことは、知識や技術は独学でもある程度は学ぶことができるかもしれないが、人と関わる能力などに関してはそうはいかず、先輩と一緒に仕事をする中で身に着くものであることを示唆している。

図10-2. 尊敬する普及指導員の持つ「情報・技術」と状況改善度

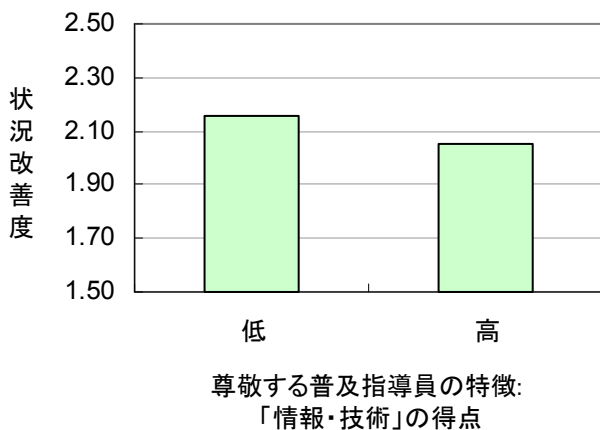


図10-3. 尊敬する普及指導員の持つ「人を育成・統制する力」と状況改善度

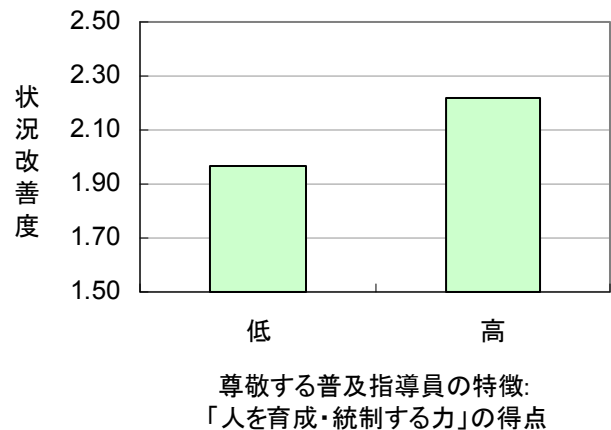


図10-4. 尊敬する普及指導員の持つ「他者志向」と状況改善度

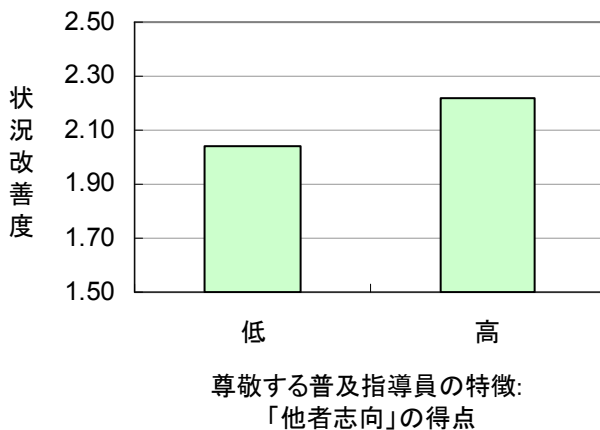
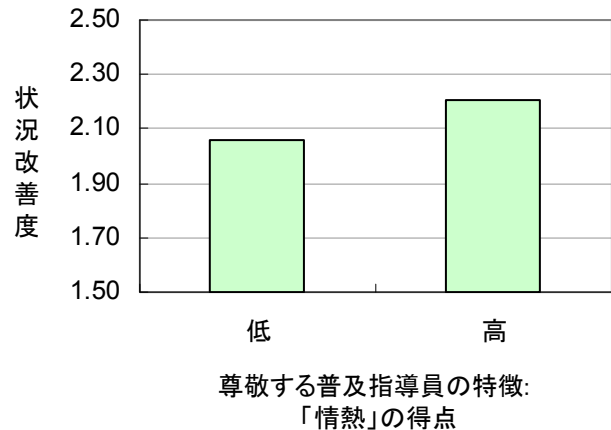
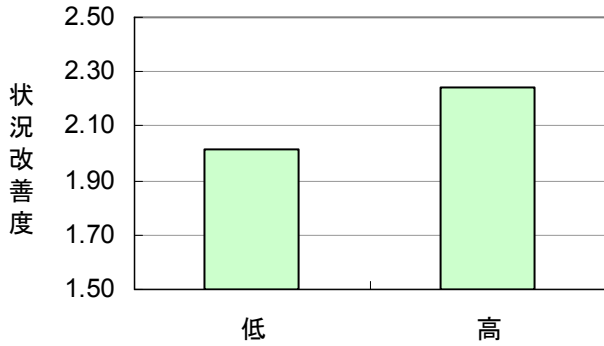


図10-5. 尊敬する普及指導員の持つ「情熱」と状況改善度



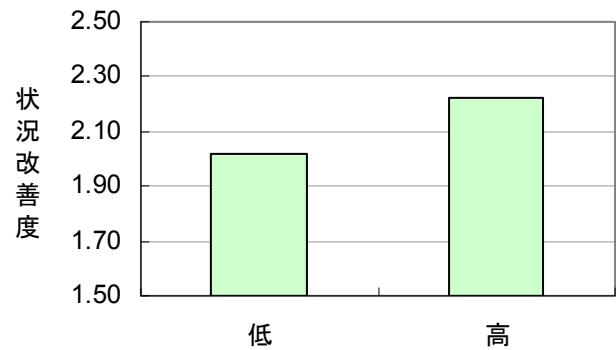
<sup>4</sup> 尊敬する普及指導員の特徴の各カテゴリ得点で回答者を中央値分割し、「低群」と「高群」に分類した。これらを独立変数に、状況改善度を従属変数にT検定を実施したところ、「情報・技術」「情熱」以外では有意あるいは有意傾向の効果が得られた。

図 10-6. 尊敬する普及指導員の持つ「ネットワーク・連携・共同作業」と状況改善度



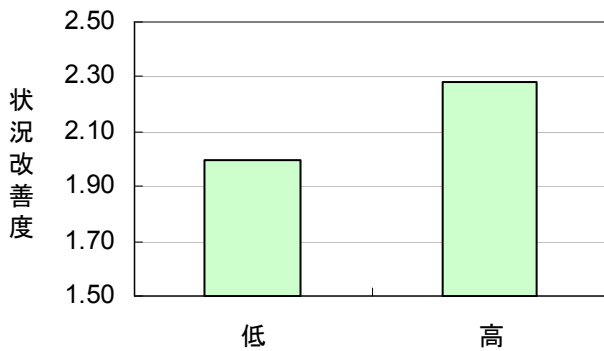
尊敬する普及指導員の特徴:  
「ネットワーク・連携・共同作業」の得点

図 10-7. 尊敬する普及指導員の持つ「決断力・行動力」と状況改善度



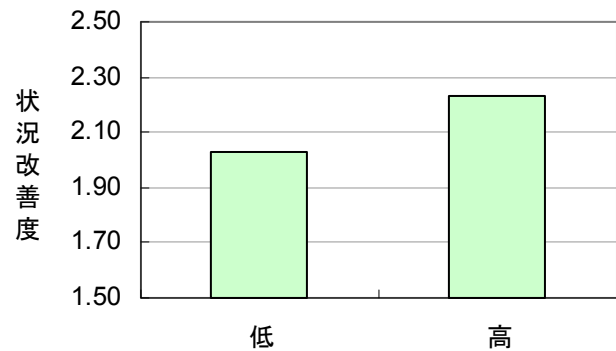
尊敬する普及指導員の特徴:  
「決断力・行動力」の得点

図 10-8. 尊敬する普及指導員の持つ「視野の広さ」と状況改善度



尊敬する普及指導員の特徴:  
「視野の広さ」の得点

図 10-9. 尊敬する普及指導員の持つ「緻密性・冷静さ」と状況改善度



尊敬する普及指導員の特徴:  
「緻密性・冷静さ」の得点



**表 2. 尊敬される普及指導員の特徴の分類**

知識・技術	知識や技術を実際に活かす 多くの知識・技術を持っている
人を育成・統制する力	知識や技術を伝えるのがうまい 説得力のある言葉や行動を通じて相手を納得させる 人を育てる力がある 農家や関係者に働きかけて成長を促そうとする 地域のリーダーを見つけ、育てる 人を引っ張り統率し、方向転換させる指導力がある その人の存在によって周囲に最善の行動を促すことができるカリスマ性
他者志向	農業者の視点に立ち、相手の心を理解しようとする 農業者に自分が何を提供できるのかを考える 農家や関係者のニーズに応じて支援したいという願望が強い 消費者の視点で考える
情熱	熱意・情熱をもって人に接している 強い信念を持ち、困難なことがあってもあきらめない 情にもろい
ネットワーク・連携・共同作業	新しい人間関係やネットワークを積極的に構築する 地域の中にいろいろな人脈を持っている 構築された人間関係をメンテナンスし、長期にわたり保持する 助言や情報提供してくれている人を多く抱えている 地域の関係機関と連携し、それぞれの役割分担を行う 周囲と連携してチームワークを形成する 普及センター内や他の普及指導員と連携し、普及組織内で自分の役割を全うできる 地域全体の中での自分の役割を理解し、全うしようとする 研究機関と連携し、問題解決に必要な研究を進めてもらう
決断力・行動力	決断力がある 自ら進んで物事に取り組む 先例がないことにも進んで取り組む
視野の広さ	物事を局部ではなく大所高所からとらえる 時代の流れを読み、将来に向けてのビジョンを提言する 地域全体が目指す目標や、要求する行動基準をよく理解する
緻密性・冷静さ	問題の局部を分析し、本質を緻密に解明する 冷静に自分をコントロールできる 細部に神経をつかい、完璧にやろうとする 問題解決又は目標達成のために必要な取組を順序立てて企画する

分類に収まらなかった項目: 「状況を的確に判断し、臨機応変に行動を変える」「信頼・尊敬の念で周囲から見られる」「とらえどころのない現象の中から大事な問題が何かを見つけ出す」「自分の能力を信じている、自信がある」「その人の存在によって周囲が明るくなるカリスマ性」「常に話し合いの中心に位置し、話題を提供する」

なお、各カテゴリの内的一貫性を検討するべく、カテゴリごとに信頼性分析を実施した結果、 $\alpha = .65 \sim .86$ であった。

注:

1. 「5. 尊敬する普及指導員・回答者本人の経験した事例で実施された支援」の図 5-1 と図 5-2 では、各支援の略称を用いている。実際の質問票で用いた呼称は次のとおり:

- (ア) **農業の担い手育成**: 農業の担い手の育成及びその将来にわたる経営確立に向けた取り組みに対する支援
- (イ) **望ましい産地育成**: 望ましい産地の育成に向けた取り組みに対する支援
- (ウ) **環境と調和した農業**: 環境と調和した農業生産に向けた取り組みに対する支援
- (エ) **食の安全・安心確保**: 食の安全・安心の確保に向けた取り組みに対する支援
- (オ) **農村地域の振興**: 農村地域の振興に向けた取り組みに対する支援
- (カ) **生産技術の紹介**: 生産技術の紹介
- (キ) **販売促進**: 販売促進に対する支援
- (ク) **関係機関との連携調整**: 関係機関との連携調整
- (ケ) **農業者同士の連携**: 農業者同士の連携・組織作りに関する支援
- (コ) **将来のビジョン提示**: 将来に向けたビジョンの提示
- (サ) **地域の具体的問題指摘**: 地域の抱えている具体的問題の指摘
- (シ) **普及員自身の学習**: 普及員自身の知識・技術の獲得
- (ス) **あえて何もしなかった**: あえて何もしなかった